NO.138　2026年10月号
発行日:令和8年10月26日

広報しょうかわ

11月の行事予定

10月31日（土）～11月1日（日）
文化展・さくらマルシェ
11月　8日（日）いまカフェ
11月15日（日）町民バドミントン大会
11月18日（水）つながるんるん広場
11月25日（水）荘川さくら学園
　　オープンスクール
11月27日（金）ハローワーク巡回
11月28日（土）ふれあい研修大会

荘川分館 おはなし会スペシャル

10月31日(土)
午前10時30分～11時30分
荘川さくら学園　地域交流スペース

おはなし会のさいごに「ゆらゆらこびと」のキットをくばるよ！おうちで作ってね

高山市図書館荘川分館

【裏側をのぞいてみたら・・・】
「表からは見えない裏側を紹介した本を集めます。」
【11月休館】
2日（月）4日（水）16日（月）
24日（火）30日（月）

第29回東海高等学校陸上競技選手権岐阜県大会 9/26

女子 5,000 メートル競歩　準優勝 大澤 百恵（飛騨神岡高校）
三重県伊勢市で開催された東海大会に出場し、健闘されました。
おめでとうございます。

第52回加茂地区中学生バドミントン大会 10/18

女子2年生　シングルス 優勝　三島 琴音（川辺 SC）おめでとうございます!

第48回全飛騨少年剣道大会 10/5

久々野体育館において開催されました。入賞された方々おめでとうございます。
男子団体　準優勝　高山西クラブ（照元 心樹・三島 啓史）
女子団体　優　勝　高山西クラブ（渡邉 佑月・三島 菜桜）
男子個人　優　勝　照元 心樹
女子個人　優　勝　渡邉 佑月　　準優勝 三島 菜桜

高山市総合防災訓練 9/27

地震・大雨を想定して実施し、災害時にとるべき行動を確認するよい機会になりました。

【祝100歳】敬老の日

一色の松浦百合子さんが100歳を迎え、敬老の日にあたり、支所長から表彰されました。元気で長生き、素晴らしいですね！

【参加者100人越え!】第4回ラン&ウォーク

ウォークの部（3km）

荘川の里山景観を楽しみながら、健康づくりや自然体験ができる行事です。東京や名古屋などから１００人を超える参加者が集まりました。ウォークの部３ｋｍでは、飛騨高山ブラックブルズ（高山市のハンドボールチーム）で活躍している、荘川にゆかりのある阿礼選手、熊本県出身の大村選手と共に、少し早い紅葉を楽しみながら歩きました。

人口と世帯

令和８年10月１日現在
（）内は前

総人口	９２０（－２）	総世帯	４０２（－２）
男	４４３（＋０）	女	４７７（－２）

【広報委員】丸山 浩一・坂上 剛・橋本 徳博・佐々木 羽玲
◇荘川町まちづくり協議会事務所 ＴＥＬ＆ＦＡＸ０５７６９－８－６００５　✉showkawamck@hidatakayama.ne.jp

ラン&ウォーク 10/4

過去最多１０８名が秋の荘川を満喫。関係者の皆様、お疲れさまでした。

スタッフが笑顔で参加者を迎えました

ランの部（２０ｋｍ）
２度の激坂から始まる２０kmのコース
５０名が挑みました

ウォークの部（３km）
親子１５組を含む５８名が、３ｋｍと
８ｋｍの道のりを歩きました。

ソフトボール大会 10/11

ソフトボール大会を開催しました。YAGURA メンバーを含む４８名の荘川大リーガーが集結。最高の天気で和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。

荘川に来て感じたこと｜岩下 正枝

今年の採れ高は、例年を超えたのではないでしょうか？

勘の良い方はすぐにお察しかもしれません。荘川町の秋と言えば「コケ」、そう、舞茸です。

地元の方が大きな舞茸の株をバックにピースサインをしている写真を見せながら、いつも以上に高揚した様子で舞茸が採れた喜びを話してくれました。

また別の方からも、さらに別の方からも。どうやら荘川町は「コケ」シーズン真っ只中なようです。

早朝から山に入り、自分が目星を付けている木の根元に出ている舞茸の成長を見回ることが肝心だそうです。

そんな話を聞いていたら、自分でも見つけられるのではないかと思い、近くの山の中へ入ってみることにしました。狙うはどんぐりがなるナラの古木。フカフカの苔の上を歩き、ススキや低木をかき分けながら進みます。しかし、舞茸はまったくありません。そう簡単には見つからないものです。その代わりにたくさんの別の種類のキノコを目にしました。見た目はおいしそうですが、後で大変な騒動になっては困ります。

唯一知っているキノコがありました。「ハナイグチ」、私の地元で「リコボウ」と呼ばれるナメコのようにヌメリのあるキノコです。今日の収穫はこれ。舞茸のように舞うほどの喜びはありませんが、安心安定のおいしさです。荘川町の皆さん、キノコは舞茸だけではありませんよ、と言いたいところですが、

荘川人の遺伝子は、来年の秋もコケを求めて

山に入るのでしょうね。